

4 平成29年度に実施した主な事業

<保健・医療・福祉の充実に>

地域包括ケアシステムの推進

1, 730万円

川崎らしい都市型の地域包括ケアシステムの構築に向けて、平成29年度に改定した地域福祉計画や地域医療計画、いきいき長寿プランなど、保健医療福祉分野における事業計画に「地域包括ケアシステム推進ビジョン」の考え方を反映するとともに、ポータルサイト等を活用し、情報を幅広く発信することで、市民や事業者、関係機関・団体等の理解度向上のための取組を実施した。

認知症高齢者対策事業の推進

3, 481万円

認知症の人の意思が尊重され、住み慣れた地域のよい環境で自分らしく暮らし続けることができる社会の実現を目指すため、歯科医師及び薬剤師を対象とした認知症対応力向上研修の実施や、「認知症初期集中支援推進事業」について、モデル実施区を幸区に加え、高津区、麻生区へ拡大した。

生活保護受給者及び生活困窮者に対する自立支援対策事業

4億1, 825万円

生活保護受給世帯の子どもに対する学習支援の実施場所を8か所から11か所に増やし、利用を拡大するとともに、主に失業により経済的に困窮している市民に対し、早期に困窮状態から脱却できるよう経済的・社会的自立に向けた支援を行った。

生活保護業務

591億459万円

生活に困窮する市民に対して、その困窮の程度に応じ、必要な保護を行い、その最低限度の生活を保障することを目的に、生活保護費を支給するとともに、医療扶助適正化のためにレセプトデータ分析を実施した。

高齢者の多様な居住環境の整備

18億7, 460万円

介護サービスの基盤整備を図るため、高津区（久末地区・久末大谷地区）の特別養護老人ホームについて、建設費補助を行うとともに、特別養護老人ホームにおける、入居者のプライバシー保護のための改修を支援した。

また、要介護高齢者の在宅生活を支えるケアの中核となる「定期巡回・随時対応型訪問介護看護」や「（看護）小規模多機能型居宅介護」等の地域に密着した介護サービスの整備を促進した。

かわさき健幸福寿プロジェクト

2, 275万円

246の介護サービス事業所が参加し、要介護等の改善・維持の成果を上げた事業所には報奨金等のインセンティブを付与する第1期「かわさき健幸福寿プロジェクト」の取組を推進した。参加214名中の要介護度の改善率は15.9%（34名）となり、平成29年8月には、これらの成果を讃える表彰式と記念講演を開催した。

障害者が安心していきいきと暮らせる取組の充実

136億7, 800万円

公設民営の障害児者福祉施設の改修工事を行うなど、施設の老朽化への対応に取り組んだ。

また、精神障害者の地域における生活を支えるために、区役所等において相談支援を行うとともに、措置入院中から退院後まで、切れ目のない支援体制の整備を進めた。

予防接種の実施

40億6, 206万円

感染症の予防及びまん延を防止するため、各種定期予防接種を実施した。

動物愛護事業の推進

5億117万円

「ひと・どうぶつMIRAIプロジェクト」の推進等、動物愛護施策に取り組むとともに、動物

愛護と適正な飼養に係る普及啓発の拠点として動物愛護センターの再編整備を進めた。

救急医療体制の確保

11億9,119万円

休日や夜間における診療や重症・重篤患者に対する医療を適切に提供し、周産期医療を含めた救急搬送患者の円滑な受入体制の確保等を行った。

また、休日（夜間）急患診療所事業を川崎市医師会に移管し、より良質な医療サービスの提供と柔軟で効果的な診療体制の構築を進めるとともに、施設の狭あい等の課題を解決する必要があることから、中原休日急患診療所を新医師会館内に移転整備するための補助を行った。

がん検診事業の実施

22億360万円

がん検診の受診率向上のため、子宮がん検診、乳がん検診の自己負担額が無料となるクーポン券の配付や、コールセンターと成人検診業務管理システムを活用した個別の受診勧奨等を実施した。

健康づくりの取組

9,707万円

若い世代への健康づくりの動機付けを図るため、妊婦とそのパートナーを対象に、歯科健診を含めた総合的な健康づくりの取組として「歯っぴーファミリー健診事業」を実施した。

<学校教育と生涯学習に>

学校教育

569億9,343万円

平成29年4月、県費負担教職員の市費移管により、人事権者と給与負担者が異なる、いわゆる「ねじれ」状態が解消され、円滑な人事施策を実施した。

キャリア在り方生き方教育推進事業では、子どもたちの社会的自立に向けて必要な能力や態度を成長段階に応じて系統的・計画的に育むため、「キャリア在り方生き方教育」を全市立学校で実施した。

児童生徒指導・相談事業では、いじめや不登校などに対応するため、スクールカウンセラーの配置等を行うとともに、各区に1名以上スクールソーシャルワーカーを配置し、社会福祉等の専門的な見地から課題を抱える児童生徒への支援を充実させた。また、「共生＊共育プログラム」を全校で実施し、いじめ・不登校を生まない環境づくりと早期対応の取組を推進した。

読書のまち・かわさき事業では、学校図書館の充実に向けて、常に人がいる環境づくりのため、小学校の学校図書館への学校司書のモデル配置を14校から21校に拡大し、引き続き、効果を検証した。

子どもの音楽活動推進事業では、より多くの児童生徒が鑑賞できるよう、子どものためのオーケストラ鑑賞の実施回数を拡充した。

魅力ある高校教育の推進事業では、定時制生徒の進学や就職に向けた支援員を配置する自立支援事業を2校で実施した。

児童支援コーディネーター専任化事業では、小学校全校において児童支援コーディネーターを専任化し、障害の有無に関わらず、一人ひとりの教育的ニーズに応じた適切な支援を行った。

川崎市高等学校奨学金事業では、対象校を増やし、能力があるにもかかわらず、経済的理由により修学が困難な対象者に高等学校奨学金を支給した。

医療的ケア支援事業では、保護者の負担軽減を図るため、小学校・中学校等を対象に、医療的ケアを必要とする児童生徒に対し、看護師が最大週2回学校を訪問した。

中学校給食推進事業では、安全・安心で温かく美味しい中学校完全給食の実施に向け、市内3か所で学校給食センターの整備を完了し、中学校全校において完全給食を開始した。

社会教育

2億4,230万円

地域における教育活動の推進事業では、子どもの泳力向上に向けて、地域の教育資源であるスイミングスクール等と連携して、泳ぎが苦手な子どもを対象に水泳教室を実施した。

地域の寺子屋事業では、地域ぐるみで子どもの学習や体験活動をサポートし、多世代で学ぶ生涯

学習の拠点づくりを進めるため、地域の寺子屋を市内38か所に拡充して開講した。

文化財保護啓発事業では、市内文化財の調査や保存修理等を実施した。また、国史跡橘樹官衙遺跡群については、史跡めぐりや現地見学会等の開催による史跡の周知や、国史跡橘樹官衙遺跡群保存活用計画を策定した。

日本民家園及び青少年科学館では、魅力ある博物館運営を実施するとともに、50周年を迎えた日本民家園においては、記念事業などを行った。

教育施設整備

172億4,289万円

児童生徒の増加に対応するため、小杉駅周辺地区及び新川崎地区における小学校新設に向けた取組を推進したほか、小学校・中学校の増築等を行った。また、安全で快適な施設整備を計画的に進めるため、学校トイレの快適化やエレベータ整備等を実施した。さらに、学校施設の教育環境の改善と長寿命化の推進により財政支出の縮減を図る「学校施設長期保全計画」に基づき、既存校舎等の改修による再生整備と予防保全の工事を実施した。あわせて、学校防災機能整備事業として、天井落下防止工事等の非構造部材の耐震対策や、発電機の整備等を進めた。

＜子育ての支援に＞

幼児教育の振興

22億8,679万円

経済的負担を軽減し、幼児教育の振興を図るため、私立幼稚園に通園する3～5歳児の保護者に対して保育料補助を実施した。また、文部科学省の示す「幼児教育の無償化に向けた取組の段階的な推進」を踏まえ、市民税所得割額が一定以下の世帯への補助額を増額した。

地域子育て支援の推進

5億5,585万円

地域子育て支援センターでは、子育て中の親子の交流促進や相談援助を実施し、ふれあい子育てサポートセンターでは市民相互による育児援助活動を行うなど、地域子育て支援を推進した。また、麻生区に病児保育施設「エンゼル麻生」を開設したことで、全7区域内において病児・病後児保育施設が設置され、各区において事業を推進した。

母子保健事業の推進

21億8,302万円

妊娠期から子育て期にわたるまでの母子保健や育児に関する様々な悩み等に対応し、切れ目のない支援に向けた取組を推進した。

児童家庭支援センターの運営

8,195万円

市内6か所の児童家庭支援センターにおいて、地域に根差した相談支援機関として事業を推進した。

各種医療費等の助成や手当の支給

317億2,922万円

通院助成対象年齢を小学校6年生まで拡大した小児医療費、ひとり親家庭等医療費、小児ぜん息患者医療費、小児慢性特定疾病医療費等の各種保険医療費の自己負担額を助成した。また、子どもを養育する家庭等に対して児童手当を支給するとともに、ひとり親家庭等の生活安定と自立促進に寄与するため、児童扶養手当等を支給した。

青少年の健全育成

3億3,829万円

地域社会全体で子ども・若者を見守り、支えるしくみづくりに向け、青少年を育成・指導する団体を支援するとともに、青少年フェスティバル等のイベントを通じて、青少年の社会参加を促進した。

多様な体験や活動を通じた児童の健全育成を推進することを目的として、こども文化センターの運営とわくわくプラザ事業を実施した。また、環境改善を図るため、こども文化センターの補修工事や狭あいの解消等を目的としたわくわくプラザ室の整備を実施した。

さらに、子どもの権利施策を推進するための広報・啓発事業等を行うとともに、「川崎市子ども・若者生活調査」を分析し、「子どもの貧困対策の基本的な考え方」を策定した。

社会的養護を必要としている児童への支援

33億1,059万円

社会的養護を必要とする児童が家庭に近い環境で養育されるよう、里親等への委託を推進したほか、児童養護施設、乳児院、児童心理治療施設等への運営支援を行った。また、里親や施設等の児童が地域の中で安心して生活できるよう、社会的養護に関する普及啓発や関係機関が連携した支援の充実に向けた取組を推進した。

児童虐待の防止

2,400万円

改正児童福祉法に基づく児童相談所の体制強化として、児童福祉司や児童心理司の増員を行うとともに、新たに非常勤弁護士を配置した。また、要保護児童対策地域協議会を通じて、要保護児童等に対する支援について情報共有を行うとともに、ネットワーク体制の充実を図った。

「虐待のないまちづくり」推進のため、民生委員児童委員・主任児童委員等と協働し、啓発活動を行った。また、子育て短期利用事業のデイスティ制度について、半日単位の利用を可能とし利便性の向上を図り、保護者の育児負担軽減を目的とした支援を充実した。

多様な保育の充実

514億434万円

保育受入枠を拡大するとともに、各区役所において保護者の保育ニーズに応じた多様な保育施策を紹介するなど、きめ細やかな利用者への相談、支援等の取組を推進したものの、保育所等利用申請者数の大幅な増加や、国の保育所等利用待機児童数調査要領の見直し等の影響により、平成30年4月1日時点の待機児童数は18名となった。

保育所の整備については、各手法により、市有地貸与型で3か所、民有地活用型等で2か所、民間事業者活用型等で18か所、鉄道事業者活用型で4か所の認可保育所を整備するとともに、既存保育所1か所で増改築による定員増を行った。また、小規模保育事業所2か所を整備するとともに、可能な限り定員増を図りながら、公立保育所の民営化・民設化に向けた取組を推進した。

延長保育事業及び一時保育事業の実施のほか、新たに「平成29年度川崎市『年度限定型』保育事業」を実施した。また、川崎認定保育園131施設に対し運営費を助成するとともに、平成30年4月に川崎認定保育園2施設を小規模保育事業に移行した。

公立保育所(37か所)では、「地域の子ども・子育て支援」、「民間保育所等への支援」及び「公・民保育所人材育成」の3つの機能を柱とした取組を行った。

市内保育所等への保育士確保対策として、潜在保育士、養成校学生等に向けた就職相談会の開催や、保育所見学バスツアー等を実施するとともに、保育士資格取得支援事業や、保育士修学資金貸付等事業費補助、保育士宿舍借り上げ支援事業補助等を行った。

幼稚園については、一時預かり事業の長時間化・通年化を推進するとともに、平成30年4月に3施設を認定こども園(幼保連携型1園、幼稚園型2園)に移行した。

女性保護事業の推進

4,610万円

各区役所において、女性に関する相談・支援を行うなど、女性の人権擁護と自立に向けた取組を推進した。また「川崎市DV相談支援センター」において、配偶者等からの暴力被害に対し、相談機関等の紹介や制度案内などの電話相談を実施した。

ひとり親家庭の生活支援

4,572万円

ひとり親家庭の自立支援に向けて、経済的支援や生活・就業支援など、多様な視点から総合的に支援を実施した。

また、ひとり親家庭の親と子どもが抱える固有の課題に対しては、貧困の連鎖を防止する観点から、ひとり親家庭の子どもの生活向上を図るため、平成29年10月から新たに市内3か所で小学生を対象とした生活・学習支援事業を実施した。

bq\$ sÇ"¶Uô‡loM" "İw†¶Q²ízìæžÑæ" =s›\$ "hŠz2"wf"z
!):~'z"İSù,wf"•§â".÷z! ›;Mh"İ°İnwf"~ËýqMlh!
è†¶^aafswT(›æOqq<tz#...2"@sw"İ^afwjË4.›ælh{
‡hz2æ~x8 b; w†¶Qw²í›\$ "hŠZ'Zçx8 èæ ¥î^a-h⁻t,
nXx8 èæ ¥T(›ælh{

"İw~'t|.÷ / | a

ç½\Ætµ£`h\Æ"İtmMoz†¶pw&s"İ:è ¥w~³›\$ "hŠz•→Q
t ahç"w2 "wiï•z Ôs›ýf`h{
‡hz " 409øt| A•M"#¿\>sw Aðç"İwT(ÄÄ›î^a`h{

®"•OMf~'t|4. / | a

>¶s'—G®tmMozNç wÈ §=•!èw È=›è\$ç`ozf~Nqq<tf-
Ð*s›î^a`h{‡hzæb®tmMoz!):wL: è•2æ w†¶→è\$ç`oz
#¿çqq<tf-Ð*s›î^a`h{^'tz®'Zç®ŠÕ#Ë=.,-h⁻t,nVzt
®„T ®w.,»Ät| é•ç®„T 133®w 8:U›î^a`h{
†¶Q•w&Q→-`zTmz• B•t§MNç,k›T(çb" hŠz®"•Ow1 0f
ÄÄ•jË4.ÄÄ›î^a`h{

x8 0f / | a

-žwÔttSZ"èæw→›\$ "hŠzL"x8 w+^Ä¿s›î^a`h{
‡hzZúf±*%›xaŠç°wættSMozx8 s± ÔwT(›* b"qq<tz
7 x8 s± Ôw4.»Ä›î^a`h{

Ë>ÈW"İsrNç-h"İswT(/ | a

"İÉ¿Äè"«w R•œ:w;ó§=zwBQw²í›\$ "hŠzNç-h"İf~ #
¿çsw~'ÄÄ›î^a`h{‡hzRÔ"tœ:w R›\$ "hŠzË>ÈW"İw»Ät£
`h{

È q.!)ÄÄw* / | a

~¿xæG£çwÈ q.!)=›* b" hŠz 8à ç-ay>ú™fó²ú £tSM
oz>f»Ät|Š.İ™»Äsr›î^a`h{
‡hz 'ÆâçwÈ q.!)=t²Zozü²ú™â -?ú tSMoz•íÐ*s rz
ÄÄÐ*›î^a`h{

O'wT<t|jË4. / | a

'S>'wÑ+›Ú€ Ž't<ÄİÉçpLv" 'S>'L+İT(ÄÄtmMoxzL
væpx%ó~ Ž+İ»ÄzÜvæpxqm°' srwTæ^af›f"b"»Ä›î^a`h{
l'§'tmMoxzì í" 50mmt0 `hO'~.t|xµ ¥t €`hT(›î^a
`zL'w ¥T(ÄÄpxz+MtSZ"„fİT(›î^a`h{
‡hz l'tSMoç ~.›î^ab"qq<tz+óswO'^afw- :U~4.›æO
srz&~sjË g›î^a`h{
^'tz+wO~Y>!ZzO'UGít'loY^`hÔùwÑ+ +Y à~•†ÉÔt)
Ô`hÑ+Ë²"ÄÚ¿Ó~ `h{